

製品名: FAK (リン酸化 Ser 722) マウスモノクローナル抗体**カタログ番号: AMM86146**

研究使用のみ

概要

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	WB,IHC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、1% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:500,IP 1:20-1:50
分子量	125kDa

抗原情報

遺伝子名	FAK (Phospho-Ser 722)
別名	FADK 1 antibody</br> FADK antibody</br> FAK related non kinase polypeptide antibody</br> FAK1 antibody</br> FAK1_HUMAN antibody</br> Focal adhesion kinase 1 antibody</br> Focal adhesion Kinase antibody</br> Focal adhesion kinase isoform FAK Del33 antibody</br> Focal adhesion kinase related nonkinase antibody</br> FRNK antibody</br> p125FAK antibody</br> pp125FAK antibody</br> PPP1R71 antibody</br> Protein phosphatase 1 regulatory subunit 71 antibody</br> Protein tyrosine kinase 2 antibody</br> Protein-tyrosine kinase 2 antibody</br> Ptk2 antibody</br> PTK2 protein

tyrosine kinase 2 antibody</br>

遺伝子 ID	5747;
SwissProt ID	Q05397
免疫原	ペプチド

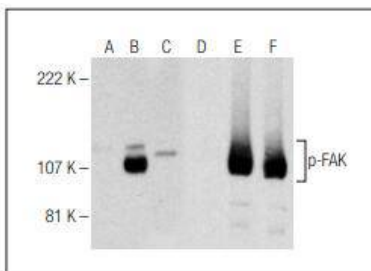
背景

真核細胞の細胞外マトリックス (ECM) におけるインテグリンの活性化は、細胞骨格タンパク質や、接着斑キナーゼ (FAK) などのタンパク質チロシンキナーゼを含む、接着斑として知られる膜接着複合体の形成を促進します。接着斑内で起こるリン酸化イベントは、細胞分裂シグナル伝達、細胞生存および細胞運動性を含む多くのプロセスに影響を及ぼします。FAK は非受容体チロシンキナーゼであり、普遍的に発現し、種間で高度に保存されています。FAK はインテグリン クラスターによってリクルートされ、接着斑に存在するエフェクター分子に応じてさまざまな程度にリン酸化されます。FAK Tyr 397 のリン酸化は、血清飢餓、接触阻害、および細胞周期停止中に減少します。これらの条件下では、活性化 FAK Tyr 407 のリン酸化が増加

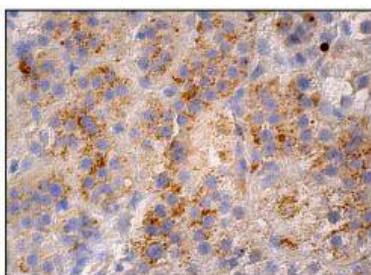
研究分野

PI3K-Akt シグナル伝達経路

画像データ



A. 293T 全細胞ライセートにおける FAK リン酸化のウェスタンブロット解析。非トランスフェクション: (A,D)、未処理ヒト FAK トランスフェクション: (B,E)、およびラムダプロテインホスファターゼ処理ヒト FAK トランスフェクション: (C,F)。試験した抗体は p-FAK (A-12): (A,B,C)および FAK (C-903): (D,E,F)。



B. ホルマリン固定パラフィン包埋ヒト副腎組織の免疫ペルオキシダーゼ染色。腺細胞の細胞質染色を示しています。